

令和8年度 学校推薦型選抜 人間健康科学部 看護学科 小論文
出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題の意図】

課題文は、視覚障害者がどのように世界を認識しているのかを理解することを主題とするものである。筆者は、障害者を「健常者とは異なる身体の使い方をしている存在」と捉え、晴眼者の立場から見えない世界を言語化し、見える人と見えない人との違いを丁寧に説明している。また、障害を単に支援の対象として捉えるのではなく、「違いを知ること」から新たな社会的価値を創出しようとする視点が示されている。

看護学科のアドミッション・ポリシーとして、「看護や医療に関する専門知識や技術の修得に必要な意欲及び基礎学力を備えている」「柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる」ことを測るための設問とした。

設問1

「視覚を遮れば見えない人の体を体験できる」というのは大きな誤解ということ本文を要約して回答する設問となっている。文章の内容を理解し要約することができるという基礎学力を確認する問題とした。

設問2

筆者の主張を踏まえて、障害がない人が、障害がある人に「変身」して障害を身をもって感じるための具体的な方法を問うものとした。

筆者の主張を踏まえて、目の見えない人の世界を自分事のように理解できるか、そしてどのようにすればよいか具体的に感じるができるかという問題であり、筆者の主張を踏まえながら柔軟な発想で論述できることを確認する問題である。

【解答の傾向】

設問1

課題文の中で、大きな誤解に関連する内容を要約できているものが多かった。しかし、受験生の中には、大きな誤解についての説明となっていないものや、本文の要約ではなく自身の意見を述べているものが散見され、減点されたものがあった。

設問2

「変身」の方法としては、異国へ行くことや視覚抜きで成立している体を感じる方法など様々な方法が記載されていた。

一方で筆者が見える人が目をつぶるのは、単なる視覚情報の遮断であり、そこで感じられるのは視覚情報の欠如となると述べているにもかかわらず、アイマスクを着用して不便さを理解するというような筆者の主張を踏まえていない内容のものも見られ、減点をした。また、看護職の視点で、視覚障害者への支援や理解が重要であるという解答も散見され、設問の意図から逸脱していたので減点とした。

第2問

【出題の意図】

看護学科のアドミッション・ポリシーとして「看護や医療に関する専門知識や技術の修得に必要な意欲及び基礎学力を備えている」と「柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる」があり、本文は医療や看護、ケアについてのリテラシーの基礎になる英語の読解力および文章や表から情報を読み取る力およびそれをもとに柔軟に思考し、表現する力を問うことを狙っている。

現代社会には多様な健康指標が存在しており、それらを用いることで人々は自分自身の健康状態を一面的に判断しやすい状況にある。第2問の本文とその表からは、客観的な健康指標において日本の状況が他国と比べて良好であることがうかがえる。一方で、主観的な指標については、他国と比較した際に日本人が自らの健康状態を悲観的に捉える傾向があることが読み取れる。客観的な健康関連指標が高水準にあるにもかかわらず、自身の健康を否定的に評価する傾向が見られるのは、いかなる背景や要因が関与しているのだろうか。

本問は、英語の読解力に加えて、そうした背景を含めて健康や医療に関する情報や指標を、自分自身がある日本という環境について多面的に考察することを意図している。設問2においては、自身の健康状態を悲観的に捉えることの是非を明示していない。これは、受験者自身の考えを反映させ、その視点を答案に盛り込むことを狙いとしている。また日本は、平均寿命、回避可能死亡、糖尿病有病率という健康関連指標については比較的良好な値を示している一方で自身の健康を低く評価している割合が比較的高いというパラドクスを、他国と対照させて説明し、その要因を考察する力を測る問題となっている。

【解答の傾向】

設問1

3つの健康指標の意味については、本文から適切な箇所を翻訳することで読み取ることができるが、各指標において population や condition といった単語の意味の取り方、or でつながる動詞の関係などによって理解の仕方に差が生じていた。表の読み取りについては、そのエリアやグループ内にも差が見られるにも関わらず、OECD加盟国を先進国と新興国（多くは発展途上国と表現されていた）、欧米、南北アメリカなどと一つにまとめ数値を要約しすぎているため減点の対象となった解答が一定数みられる一方で、複数の比較からある国の傾向を正確に読み取れている解答も同程度存在した。

設問2

高得点の解答の傾向として、設問1の3つの指標を国際的に比較したとき日本は良好な値を示していること、これにもかかわらず自分自身を不健康であると考えている人の割合が高いことのパラドクスを読み取り、それに対する応答ができていることがあった。低得点の解答では、self-rated health という指標の意味を誤って解釈しており、パラドクスが読み取れず論理的な整合性が取れなくなっている、self-rated health を除く3つの指標で主張を展開しているといった傾向がみられた。